

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第613号 2021年3月14日

## 2021年度・山手教会入信志願式開催

例年、藤沢教会で開催している横浜教区合同入信志願式は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策で中止となり、小教区ごとで行われることになりました。

山手教会では、2月21日（日）11時30分ミサの中でラファエル梅村昌弘司教司式により執り行われました。今年の復活徹夜祭で洗礼志願者17人、外国籍の改宗者1人が予定されていますが、本日の参加者は13人でした。また、志願署名カードは代表者が司教に手渡しました。なお、共同祈願では「きょう、入信志願者に選ばれた兄弟姉妹が神の招きを生涯忘れず、その恵みに応えることができますように」と聖堂に集まった信徒全員で祈りました。

## 梅村昌弘司教説教（要旨）

きょうの四旬節第1主日にあたって朗読箇所も、すべて入信志願者のために整えられています。わたしたちは聖書の「みことば」を通して、その都度、わたしたちにとって希望をいだかせることばをくみ取っていけたらよいと思います。きょうの第1朗読（創世記9章8-15節）の出来事ですが、神ご自身が人々と契約を結ばれたことが語られています。

わたしたちは契約をたてるというと、一般的には双方との間で契約を結ぶことを言います。しかし、神さまとの間の契約とは、神がすべてのイニシアティブを持っていらっしゃる。旧約時代に、いろい

ろな形で、たびたび契約が結ばれます。神ご自身は、ご自分でたてられた契約を最後まで忠実に守られます。契約を破るのは、わたくしたち人間です。神の民として選ばれたイスラエルの人々が、いかに、この契約をないがしろにしてきたかは、旧約聖書で語られています。そして、最後のときに御子イエス・キリストをわたしたちの救い主として遣わしてくださいました。この方を通して新しい契約が結ばれたということであり、神さまが結ばれた契約。神さまは、この契約に誠実、忠実であり、約束をたがえることがないことは、旧約聖書や新約聖書を通して語られています。このことは、わたしたちには大きな福音であり、喜ばしい知らせです。

洗礼を通してキリストの死に結ばれたものは、その復活にも結ばれることができる。このことを救い主であるイエスさまご自身が約束してくださいました。この約束がたがえられることは決してないのです。そこに希望を見出しながら、どんなに厳しい状況にあっても前進していくことができるのではないのでしょうか。この契約を通して示されている神さまの誠実、忠実を心に留めることができればと思います。

もう一つ、きょうの福音書（マルコ1章12-15節）で言われていることの中に、希望を見出すことができることばが語られています。

「ヨハネが捕らえられたのち、イエスはガリラヤに行き神の福音を宣べ伝えて『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた。」

冒頭でイエスさまが言われている「時は満ち」は、“救いの時”を表しています。“救いの時”は満ちるものだという事です。この「時」については、ヨハネ福音書の2章（カナの婚姻の出来事）で語られています。マリアさまが懇願するわけですが、イエスさまは意外と冷たいことばで応じられています。「わたしの時は、まだ来ていません」と言われましたが、受難の道を歩き始める時に「人の子が栄光を受ける時が来た」と言われて歩み始められました。イエスさまがおっしゃる「人の子が栄光を受ける時」とは、受難と死を通して復活の栄光に与ることを意味しています。

“救いの時”とは、ただ単にわたしたちが経験している「時」とは、その質を異にしています。わたしたちは日常生活の中で、時は過ぎ去るものであり、何となく、むなしい思いにさせられます。しかし、神さまが準備された“救いの時”は、決して単に過ぎ去るものではありません。「必ず、その時が来て、その時をもって救いが実現する」ということをイエスさまご自身、そして、イエスさまのことを書き記している各福音書をはじめとする聖書は、わたしたちにそのことを語っています。

40日の期間を通して入信志願者の皆さんが、さらに信仰を深め、復活徹夜祭の秘跡を通して自らの信仰にふさわしい神さまからの祝福と恵みをより豊かに頂くことができるように、四旬節の間、祈り続けていきたいと思えます。そして、入信志願者の皆さんも入信の秘跡を受けるにあたって、より良い準備ができますように努めていただければと思えます。



司式される梅村司教



香をたく



十字架とともに

